

感染症に気をつけよう!

2015年【8月号】



横浜市内の感染症 流行状況



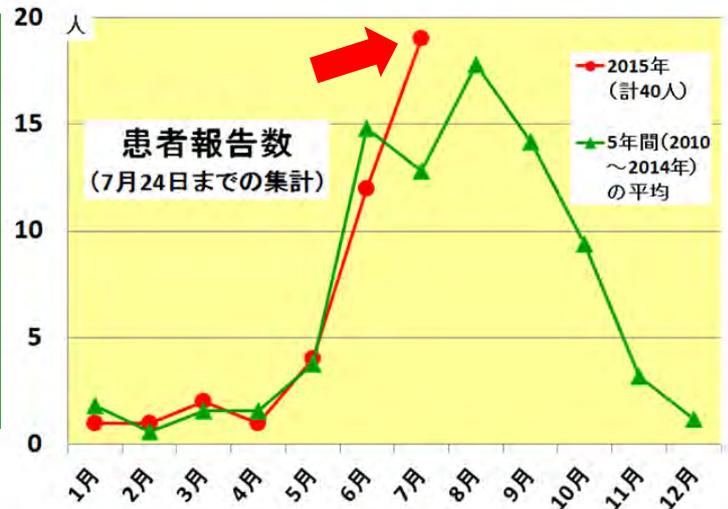
感染症	流行状況		説明
手足口病	大流行	横ばい	10年間で最大の流行で、5歳以下が多いです。咳のしぶきや便からうつるので、 <u>予防には手洗いが重要</u> です。【8月号】
腸管出血性大腸菌感染症	流行	増加	O157(オーイチゴナ)等に汚染された物を口にすることで感染します。乳幼児や高齢者では重症になりやすいです。【7月号】
ヘルパンギーナ	流行	横ばい	乳幼児に多い夏かぜで、突然発熱しのだに水ぶくれができて痛みます。患者の <u>オムツ交換後など、よく手を洗い</u> ましょう。

【 】は解説付き既刊号 ← クリック

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症



- 市内では、6月から急に増加し、7月は例年を上回る報告数でした。
- 中には、溶血性尿毒症症候群(HUS)という、非常に重い子どものケースもありました。これは加熱用の牛レバーを家庭で生のまま食べたことが原因です。
- 家族内での感染も起きています。



肉は十分に加熱しましょう。
中心部まで75℃で1分以上が必要です。



家庭での感染防止には手洗いがポイントです。
トイレも清潔に保ちましょう。

これから10月頃までは、毎年、報告が多くなっています。
食べ物による感染と、人から人への感染を、しっかり防ぎましょう。

